

例年、ギリシア哲学関係の演習や研究講義の出席者たちによってなされる研究発表、提出されるレポートは少なからずあり、それらの中には研究成果として確かな客観的意義を持つと思われるものや、興味深い示唆を含んだものが見出される。また、大学院の博士後期課程において毎年作成することになっている研究報告には、特に量的にも質的にも充実した内容のものが多い。その一部は他にも発表の機会を得ることがあるにしても、しかし、大部分は個人の手元にとどまっているのである。

これらの成果をひとまず記録に残すことにした。必ずしも論文として完成されたものばかりではないかもしれないが、ここではむしろ第一に、各自にとって今後の研究のステップとなりうるような、大きな可能性を蔵していることを期待したい。さらに、この場が機縁となって、相互に意見が交わされ、よりいっそう充実した成果へと発展していくことを強く期待する。

HYPOTHESISという誌名は、現在の研究室のメンバーの間でこの件が話合われた折に、さりげなく提案されて、そのまま何らの異存もなく決定されたものである。高みへと達するための「踏み台・跳躍台」を意味するギリシア語を掲げることは、なるほど本誌の意図に正確に見合っているように思われる。